

「出題の意図」

選抜区分	2026（令和8）年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 国際環境工学部（科目名：数学）
出題の意図 （評価のポイント）	<p><出題の意図・ねらい></p> <p>第1問 数学I, 数学Aに関する基礎学力を確認する問題である。数と式, 2次不等式, 図形, 場合の数と確率について出題している。初歩的な計算を確実に解く能力を問う。</p> <p>第2問 数学II, 数学Bに関する基礎学力を確認する問題である。二次方程式の解と係数の関係, 図形と方程式, 指数関数と対数関数, 三角関数, 数列について出題している。幅広い基本問題を確実に解く能力を問う。</p> <p>第3問 数学III 対数関数を含む合成関数の導関数・不定積分を求めることができるか, 微分法の応用として関数のグラフを利用して方程式の実数解の個数を調べることができるか, 微分法の応用として曲線と直線で囲まれた部分の面積を求めることができるかを問う。</p> <p>第4問 数学C 平面および空間のベクトルに関する基礎学力を確認する問題である。平面における三角形の面積, 空間における垂直条件などの基本的な理解とその問題を解く能力を問う。</p> <p><受験生の特徴と傾向></p> <p>第1問 第1問は基礎的な学力を測る問題であった。(問4), (問5)は比較的正答率が高かった。(問1), (問3)では途中の計算間違いによる誤答, (問2)では不等号が逆という誤答が散見された。</p> <p>第2問 第2問は基礎的な学力を測る問題であった。(問4)は他の問題に比べて, 正答率が高かった。(問1)では複素数を含んだ誤答, (問2)では円の方程式の不十分な理解による誤答, (問3)では対数の式変換の不十分な理解による符号違いの誤答, (問5)では数列の総和の不十分な理解による誤答が散見された。</p>

第3問

微分法と積分法の応用力を問う問題であった。(問1)は比較的正答率が高かった。(問2)と(問3)は受験生によって正答率が大きく異なり、(問2)(1)では導出過程の記述と導出したグラフの概形が異なる回答が、(問2)(2)では適切な場合分けが行われていない回答があった。また(問2)と(問3)は記述式の設問であるにも関わらず、導出過程を示していない解答があった。

第4問

第4問は空間ベクトルに関する問題であったが、受験生によって正答率が大きく異なった。(問1)は比較的正答率が高く、(問2)は正答率が半数程度であった。(問3)は(問1)と(問2)の数値を利用して回答する問題であったため、正答率は(問2)の正答率に依存した。一方で、(問2)の数値を利用しない回答法で正答を導き出す受験生もいた。